

書名	万葉の鳥			著者名	山下 景子／著		
出版社	誠文堂新光社	ISBN	978-4-416-61997-1	本体価格	¥2,500	発売	2021/9/3
内容	花鳥風月を詠んだ歌が豊富なのは知られることですが、『万葉集』には、はっきりわかっているだけでも、約30種の鳥を題材にした歌が詠まれています。愛らしい鳥の姿や、その鳴き声に、愛しい人の姿や心情を重ねたり。季節の移り変わりや身近な出来事をつづったり。本書では、そんな『万葉集』で詠まれた40種の野鳥について、その品種ごとに和歌の愉しみ方を読み解きます。万葉集で登場する鳥を解説しながら、その周辺の和歌についてもあわせて紹介。またそれぞれの項の末尾には、「鳥しるべ」として、現在のバードウォッチングにも活用できる様々な情報も加えました。						

書名	天平芸術の工房			著者名	武者小路 穰／著		
出版社	法藏館	ISBN	978-4-8318-2627-5	本体価格	¥1,200	発売	2021/9/10
内容	正倉院や東大寺をはじめとする花やかな天平芸術の創造にたずさわった工人たちは、どのような歴史を経て、いかなる活動をしていたのか。東大寺の大仏の造営の行われた8世紀半ばを中心にして、日本で活動するようになった画工が政府の工房に組織され、その制作活動を拡大していく過程をたどり、やがて9世紀には官司工房としては衰退して、そこから新しい画工の民間工房が成立していく方向を展望するとともに、古代国家の文化の形成基盤の全体像を解明する。。						

書名	龍華記 角川文庫			著者名	澤田 瞳子／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-111642-5	本体価格	¥700	発売	2021/9/18
内容	高貴な出自ながら、悪僧(僧兵)として南都興福寺に身を置く範長は、都からやってくるという国検非違使別当らに危惧を抱いていた。検非違使を阻止せんと、範長は般若坂に向かうが――。著者渾身の歴史長篇。						

書名	なっちゃんの花園			著者名	寮 美千子／著		
出版社	西日本出版社	ISBN	978-4-908443-58-9	本体価格	¥1,200	発売	2021/9/21
内容	「今が一番幸せや」が口癖のなっちゃん。 日本に生まれ、在日二世としての差別を受け入れ、必死に生きてきたなっちゃんに訪れた転機は、54歳のときに入学した夜間中学。 ここで読み書きを覚え、何より社会科を学ぶことで、戦前朝鮮半島で何があり、なぜ自分が日本にいるかを知り、お父さんの心を知ること。 社会を刺しながらも、ハートフルな1冊です。						

書名	ヒルコノメ			著者名	竹林 七草／著			
出版社	二見書房	ISBN	978-4-576-21148-0	本体価格	¥780	発売	2021/9/21	
内容	母との確執のために、疎遠だった祖母が亡くなり、葬式に列席するために奈良郊外までやってきた大学生・橘美彌子。祖母を弔ったあとに見かけたのは歪な人影だった。その後、身のまわりの人々が首に細く赤い痣を浮かべ、次々に凄惨な死を遂げていく。彼らは死した後、美彌子に「ワギモハイズコ」という言葉を遺す。先輩の高野の手を借りその言葉の意味を追うが							

書名	アイドルと旅する仏像の世界			著者名	村松 哲文、和田 彩花／著			
出版社	NHK出版	ISBN	978-4-14-228821-2	本体価格	¥1,300	発売	2021/9/25	
内容	2020年8月発行の、NHK趣味どきっ!『アイドルと巡る仏像の世界』の第二弾。前回と同様、仏像の世界に興味を抱くアイドル達が仏像の専門家に導かれ、その奥深い世界に触れる。三十三間堂の圧巻の仏像群、荘厳な薬師寺・薬師三尊像など、仏像の魅力をダイナミックな写真と詳しい解説で紹介する。							

書名	京阪神発 日帰り 大人の小さな旅 社寺めぐり			著者名				
出版社	昭文社	ISBN	978-4-398-29552-1	本体価格	¥900	発売	2021/9/28	
内容	京阪神在住の40～60代に向けて「大人のための日帰り旅」を提案する昭文社ムック『京阪神発 日帰り 大人の小さな旅』シリーズの最新刊で、京阪神の社寺とその周辺情報を掲載した一冊。大人がぜひ訪ねたい社寺を紹介するとともに、あわせて楽しみたいグルメや立ち寄りスポットなどを紹介。奈良の大神神社や滋賀の近江神宮、竹生島、和歌山の神倉神社や兵庫の書写山圓教寺など、社寺を愉しみながらゆったりと旅をする大人の上質旅を提案します。							

書名	2040年生き残る自治体！			著者名	小西 砂千夫／著			
出版社	学陽書房	ISBN	978-4-313-16170-2	本体価格	¥2,500	発売	2021/9/29	
内容	人口減少に有効な手が打てない中、市町村はその役割を持続できるのか？また市町村合併か。町村はつぶされるのか。道州制は有効なのか。広域連携は不可避なのか。県と市町村連携は、県による統治にならないのか。そんな疑問と不安に真摯に向き合って考察し、奈良県の具体的な事例を示してその解決策とヒントを示す！							